

(平成25) 2013年 9月8日(水)

- 沖縄タイムス 琉球新報 その他 (
- からいアランド NPO CSR 協働 寄付・基金 その他

内容: 国頭におもちゃ美術館

国頭におもちゃ美術館

11月完成 地元木材を活用

【国頭】国頭村産の木材で作ったおもちゃで遊べる体験型施設「やんばる森のおもちゃ美術館」が11月、村辺土名の村森林公園内に完成する。村が村森林組合や県内のおもちゃ作家、東京おもちゃ美術館を運営するNPO法人日本グッド・トイ委員会と連携し、木育の拠点作りや林業の振興に取り組む。リュウキウマツやイタジイなどの地元材を生かしたおもちゃに触れる施設で、村は観光への波及効果も期待している。

村、林業振興・観光効果に期待

施設は森林公園の研修センター(約207平方メートル)を全面改修して整備、村森林組合の協力で、館内は地元材をふんだんに使った内装にする。遊具やおもちゃは直径2メートルのリュウキウマツのプールや積み木など。プールにはヤンバルクイナの卵を模したおもちゃが入り、積み木はイスノキやイタジイなど8種の木材を使い、木の特徴を生かした。

どれも自由に触れて遊ぶことができ、将来的にはおもちゃの販売も予定している。遊具やおもちゃは可動式で、研修センターの機能は保たれるという。

日本グッド・トイ委員会は東京おもちゃ美術館を運営し、年間12万人が来場。全国各地の木育推進活動に実績がある。

村経済課の大城靖課長補佐は「観光客や中南部の子供たちがやんばるに来る呼び水にしたい」と話す。建築材には使えない小さな木材が、おもちゃ作家の手で付加価値の高いおもちゃに変わるため、木

材の販路拡大にも期待を寄せている。

整備は沖縄振興一括交付金1900万円を活用。11月の開館に向けて準備を進め、来年4月のグラントオープンを目指す。運営は村森林公園の指定管理受託業者が担う。

大城課長補佐は「木の良さを伝えることで林業の振興につなげたい。子供から大人まで木製のおもちゃで遊んでもらい、木の需要を増やしていきたい」と話している。



森のおもちゃ美術館の完成予想図 (村提供)

森のおもちゃ美術館